



～ 夢ひとすじに ～  
宮原中だより

自ら学び 心豊かに たくましく

平成 26 年度 特別号 ⑥  
平成 27 年 3 月 26 日 (木) 発行  
さいたま市立宮原中学校  
メールアドレス  
miyahara-j@saitama-city.ed.jp  
ホームページアドレス  
<http://miyahara-j.saitama-city.ed.jp/>

「魂のごちそう」

校長 やました せいじ  
山下 誠二

今年度も残すところ5日となりました。保護者、地域の皆様には、宮原中学校の教育活動にご支援、ご協力を賜り、ありがとうございました。

さて、「校長として一番嬉しいこと」それは、部活動の活躍、生徒や教職員が地域の方からほめられたりすることはもちろんですが、そのこと以上に嬉しいことは、この学校だよりに触れてもらえることです。1年生の男子からこんな手紙をもらいました。

校長先生には、今まで僕たちにいろいろな話をしていただきました。この前の学校だよりで”置かれた場所で咲きなさい”と書かれていました。この言葉に僕は感動しました。これからも人を感動させる言葉を贈り続けてください。

また、学校評価では、保護者の方から、こんな言葉をいただきました。

校長の宮原中だよりの文面は、毎月、我が身を振り返る良いきっかけとなっています。

校長だって生身の人間ですから、正直、ほめられると嬉しいんです。人間のやる気の源、プラスのエネルギーの源は至ってシンプルで、ほめてもらうことや誰かに励ましてもらうこと、自分の行為や行動を認めてもらったりすることにあると思います。思い出してみてください。子どもの頃、運動会の徒競走で一番になりたいと思ったその理由。テストで頑張っている点数をとろう！と思って勉強したその理由。思い出されましたか。「ほめられる」というのは、ある意味、お金より価値の高いもの、大昔から変わらない、そして全世界共通の「魂のごちそう」だと思います。大人はどうしても「子どもが期待通りのことをできたらほめてあげよう」と考えてしまいがちです。そうすると、当然のことながらほめ言葉は少なくなってきます。なぜなら、子どもは失敗もしますし、頑張っても親や先生の期待にいつも応えられるわけではありませんから。そんなとき、子どもを激励するつもりで「もっと頑張るんだよ」と言いがちです。しかし、子どもはそう言われると「自分は頑張ってもダメだ。頑張っても、また頑張れと言われるに決まっている。」と考えてやる気がなえてしまうものです。子どもは、できれば自分の頑張ったことを親や先生から認めてもらい、ほめてもらいたいと心の底で思っています。期待通りの結果は出せないけれど、それでも自分なりに頑張っている。ありのままの自分を見てほしいし、認めてほしいと願っています。そんな気持ちを汲んで、今の状態でも「頑張ってるね」「よくやってるね」「ここまでよく続けたね」などと認めてあげることが重要だと思います。また、子どもをほめるときに「当たり前」は禁句です。「そんなことはできて当たり前」と考えていると、子どもをほめることができなくなってしまいます。大人にとっては当たり前でも、成長過程にある一人ひとりの子どもの中には、当たり前ではないことは多いものです。あいさつをすることも、一人で着替えをすることも、残さず食べることも片づけをすることも、当たり前だと思うことは、習慣になっていなければ、子どもにとっては、決して当たり前ではないはずです。この「魂のごちそう」を多く与えてあげられる、そんな宮原地域でありたいものです。来年度もよろしく願いいたします。

